

【4-8 定性的システマティックレビュー】

<b>CQ</b>	9	乳癌治療が終了した乳癌患者が新たに生殖補助医療を受けることは推奨されるか？
<b>P</b>	乳癌治療が終了した乳癌患者	
<b>I</b>	生殖補助医療を行う	
<b>C</b>	なし	
<b>臨床的文脈</b>	乳癌治療が終了した乳癌患者は、乳癌無病生存期間(DFI)、乳癌生存期間(OS)、エストロゲン値の上昇、再発数の増加なく、新たに生殖補助医療を受けることができるのか？	

<b>O1</b>	乳癌無病生存期間(DFI)
<b>非直接性のまとめ</b>	CQは乳癌治療が終了した乳癌患者であるが、得られたエビデンス総体は乳癌治療前あるいは乳癌治療中の妊孕性温存に関する生殖補助医療のものである
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	
<b>コメント</b>	CQに適切な研究はなかった

<b>O2</b>	乳癌生存期間(OS)
<b>非直接性のまとめ</b>	CQは乳癌治療が終了した乳癌患者であるが、得られたエビデンス総体は乳癌治療前あるいは乳癌治療中の妊孕性温存に関する生殖補助医療のものである
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	
<b>コメント</b>	CQに適切な研究はなかった

<b>O3</b>	エストロゲン値の上昇
<b>非直接性のまとめ</b>	CQは乳癌治療が終了した乳癌患者であるが、得られたエビデンス総体は乳癌治療前あるいは乳癌治療中の妊孕性温存に関する生殖補助医療のものである
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	
<b>コメント</b>	CQに適切な研究はなかった

<b>O3</b>	再発率
<b>非直接性のまとめ</b>	CQは乳癌治療が終了した乳癌患者であるが、得られたエビデンス総体は乳癌治療前あるいは乳癌治療中の妊孕性温存に関する生殖補助医療のものが含まれている。
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	介入/非介入が患者希望で決まる。背景因子は調節されているが不明項目がおおく、潜在的交絡因子の調節は行われていない。
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	アウトカムに関する非一貫性はない
<b>コメント</b>	乳癌治療終了後に生殖補助療法を行うことで再発率の上昇は認めず乳癌に対する影響は少ないと考えられるが、統計学的解析は行われていない。